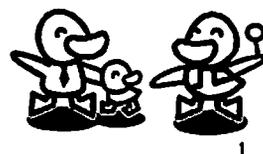




世田谷区の現況について

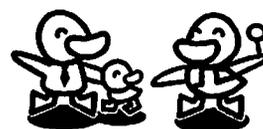
-
1. 人口動態等
 2. 保育等サービス供給・利用状況等



1



1. 人口動態等について

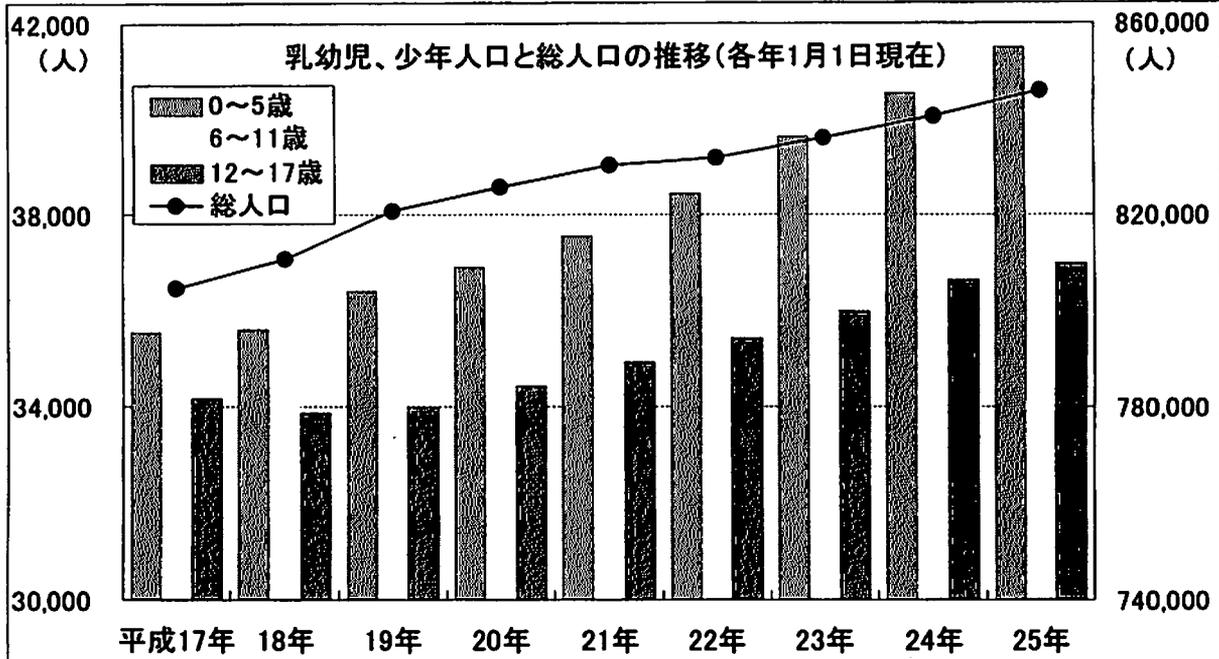


2

<世田谷区の人口の推移（平成17年～25年）>

世田谷区の総人口・児童人口ともに増加傾向にあり、特に乳幼児の増加が著しい

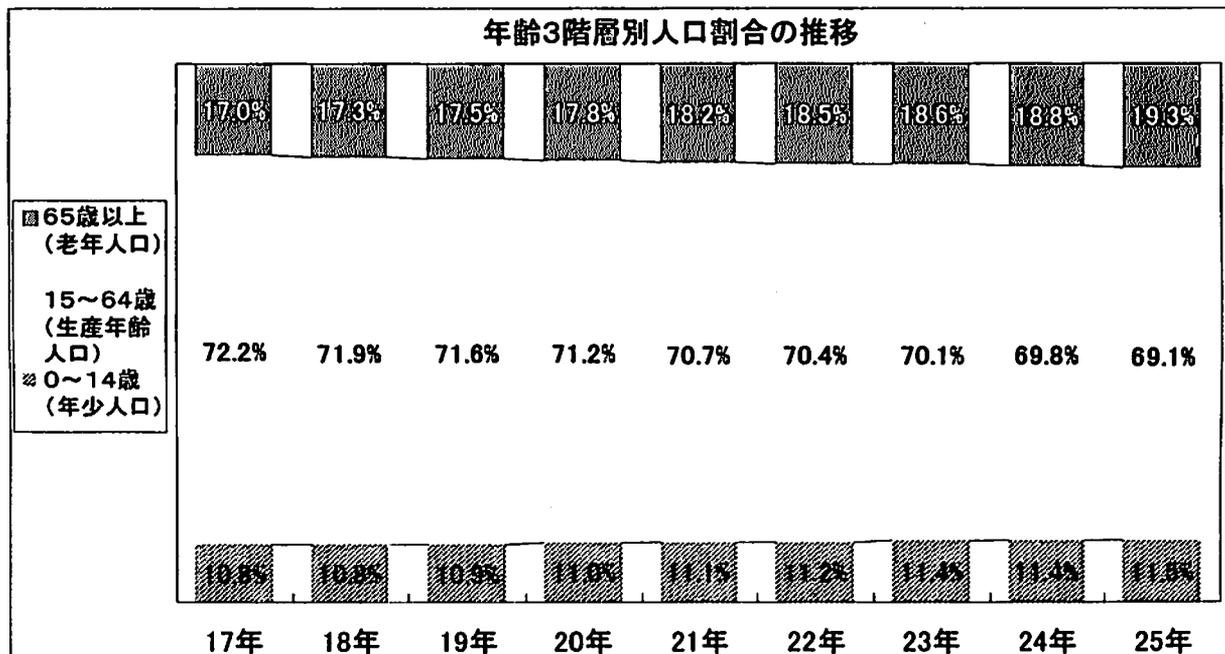
- ・ 総人口 804,730人(平成17年) ⇒ 845,922人(平成25年)[41,192人増]
- ・ 0～5歳の人口 35,559人(平成17年) ⇒ 41,507人(平成25年)[5,948人増]
- ・ 6～11歳の人口 34,600人(平成17年) ⇒ 37,309人(平成25年)[2,709人増]
- ・ 12～17歳の人口 34,181人(平成17年) ⇒ 37,010人(平成25年)[2,829人増]



3

<年齢3階層別人口割合の推移>

- 年少人口比率 10.8%(平成17年)⇒11.5%(平成25年)[0.7%増]
- 生産年齢人口比率 72.2%(平成17年)⇒69.1%(平成25年)[3.1%減]
- 老年人口比率 17.0%(平成17年)⇒19.3%(平成25年)[2.3%増]

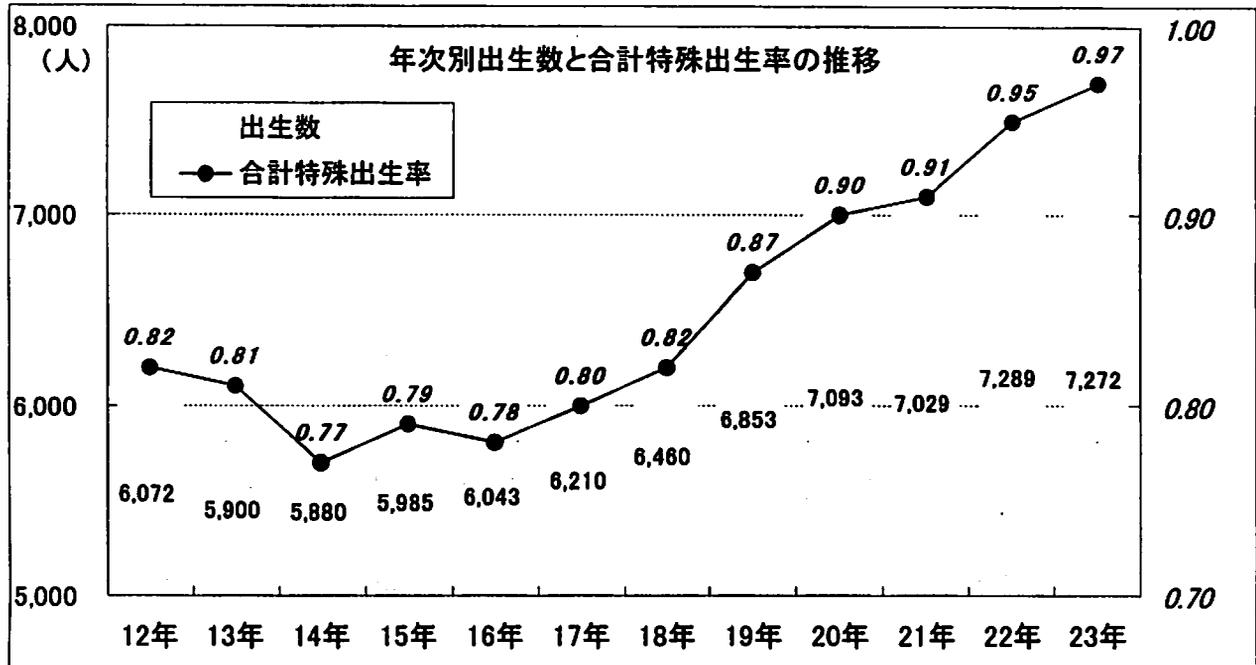


4

<年次別出生数と合計特殊出生率の推移>

出生数、合計特殊出生率ともに平成14年度以降増加傾向にある

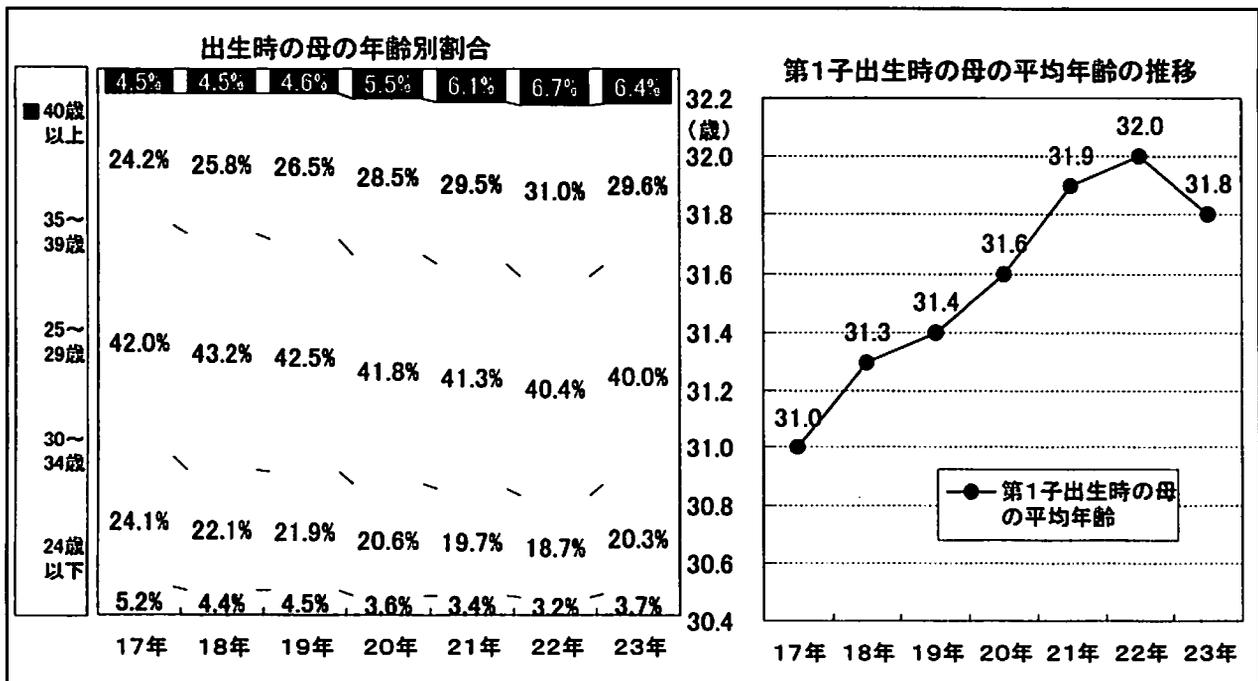
- ・ 出生数 6,210人(平成17年) ⇒ 7,272人(平成23年)
- ・ 合計特殊出生率 0.80(平成17年) ⇒ 0.97(平成23年)



5

<出産状況の変化（高齢出産）>

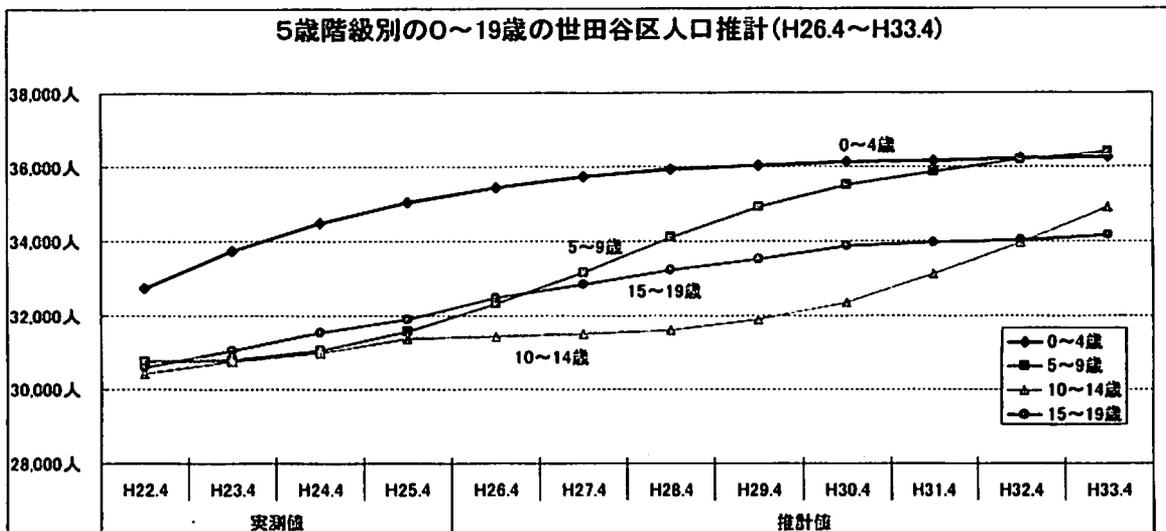
35～39歳、40歳以上の出生の割合が増えている。また、第1子出生時の母の平均年齢も上昇しており、出産の高齢化が進んでいることが伺える



6

<人口推計（5歳階級別の0歳～19歳人口）>

今後も各階級とも人口が増加することが予測される。

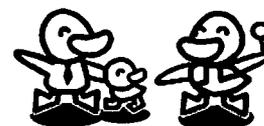


※平成25年4月までの人口を基に、直近3年の各年齢の増減率の平均を利用して社会増減を推計。また、同じく直近3年の合計特殊出生率の上昇率の平均を利用して自然増を推計。（事務局作成数値）

7



2. 保育等サービス供給・ 利用状況等について



8

<乳幼児の年齢別養育状況（平成24年）>

年齢別の養育状況を施設分類別に表している。Dの家庭・その他が半数を占めており、施設利用の潜在的ニーズを把握すべき主な対象と考えられる。

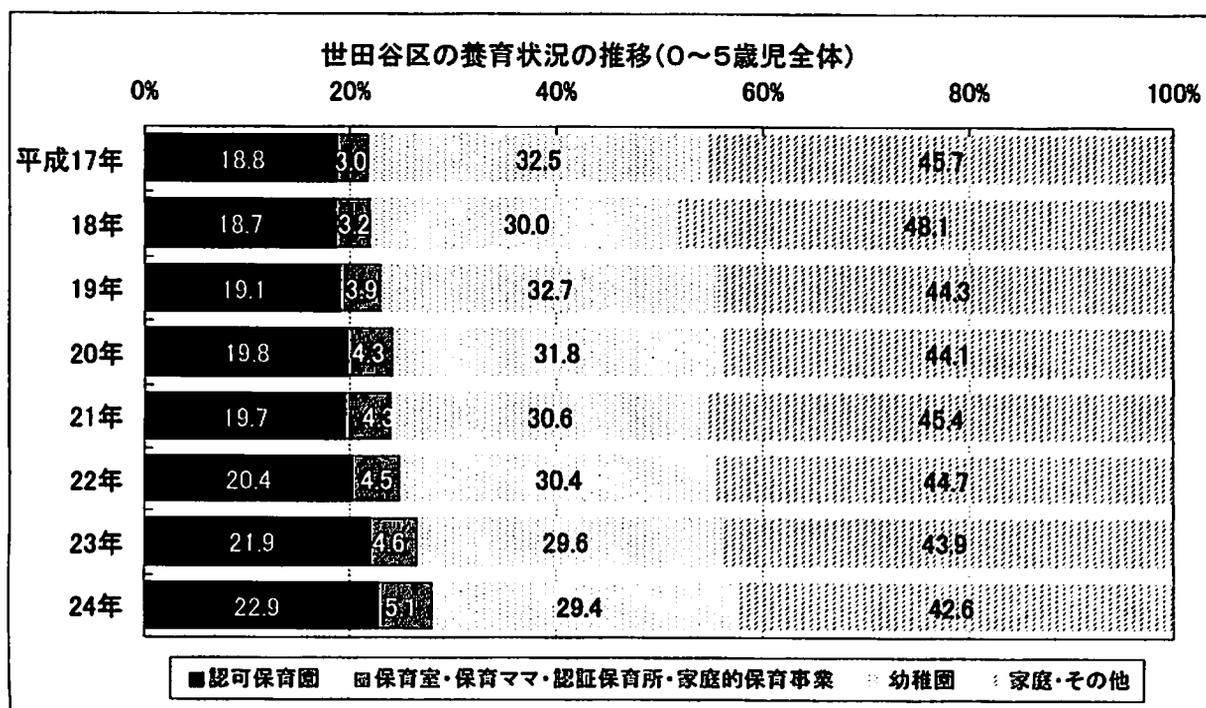
	A 認可保育園 区立49園 私立38園	B 保育室・ 保育ママ・ 認証保育所・ 家庭的保育事業	C 幼稚園等 公立9園 私立58園	D 家庭・ その他	人口 (住民記録)
0歳	634	482	0	5,931	7,047
1歳	1,526	674	0	4,853	7,053
2歳	1,742	614	2	4,575	6,933
3歳	1,913	167	3,511	1,227	6,818
4歳	1,851	82	4,265	450	6,648
5歳	1,670	70	4,248	355	6,343
合計	9,336	2,089	12,026	17,391	40,842
0-4合計	7,666	2,019	7,778	17,036	34,499

※認定子ども園に通う園児数については、上記A、B、Cに含まれる。

9

<乳幼児の養育状況の推移>

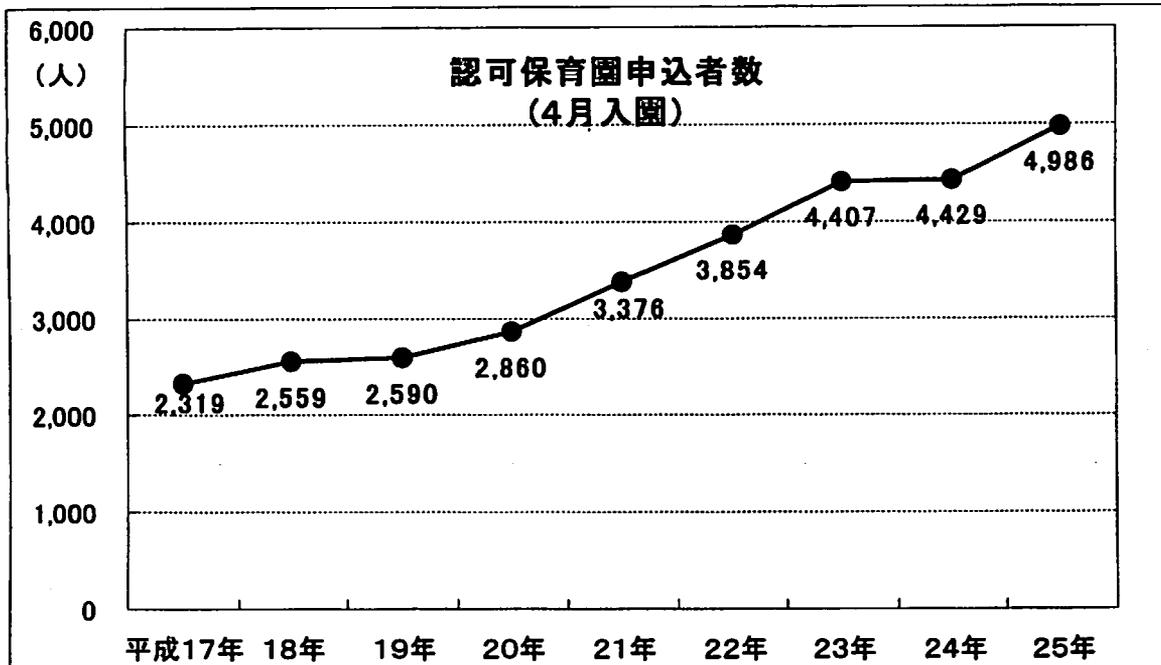
保育サービス(認可保育園・保育室・保育ママ・認証保育所・家庭的保育事業)の入所状況の割合は年々上昇しており、24年度は28.0%である。



10

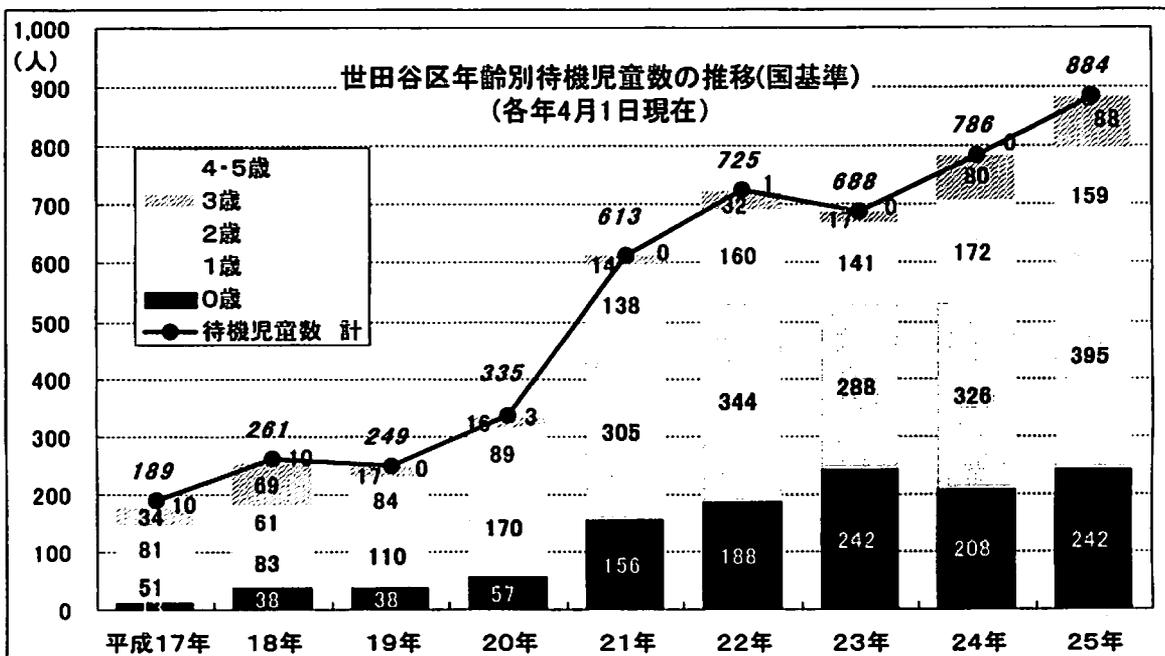
<認可保育園申込者数（4月入園）の推移>

認可保育園の申込者数は、年々増加しており、平成25年は前年度より557人増の4,986人であった。（平成17年⇒25年で2,667人増）



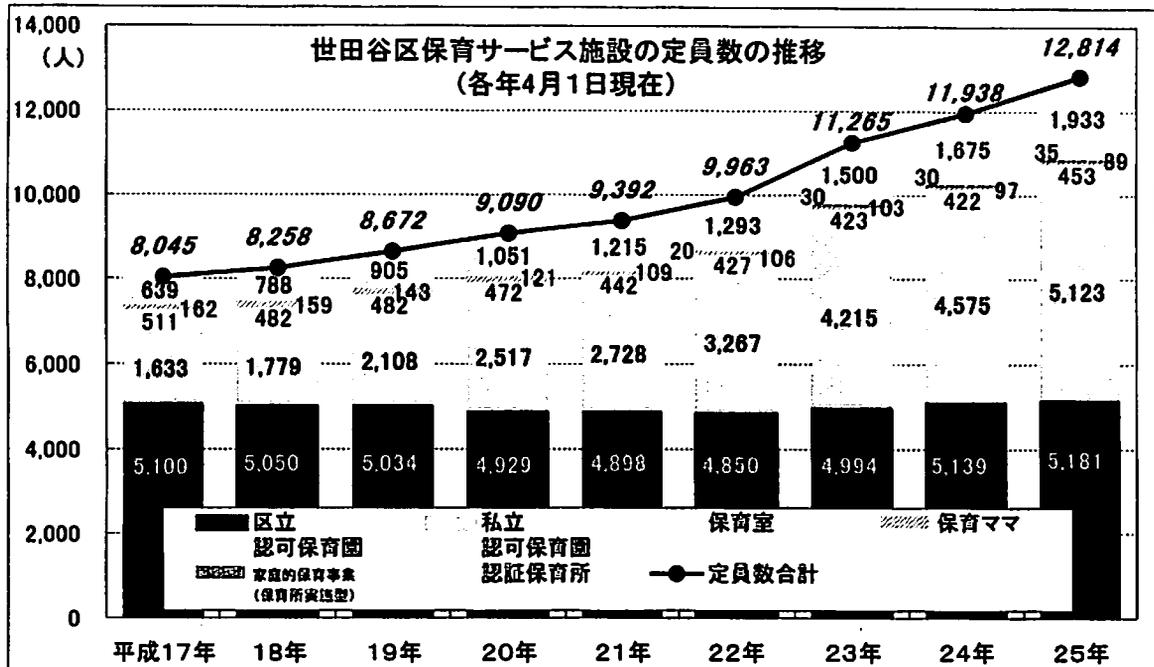
<保育サービス待機児の推移>

未就学児童の増加や保育ニーズの増大により増え続けている
平成25年度は24年度に比べ98人増加した（17年⇒25年で695人増）



<保育サービス定員数の推移>

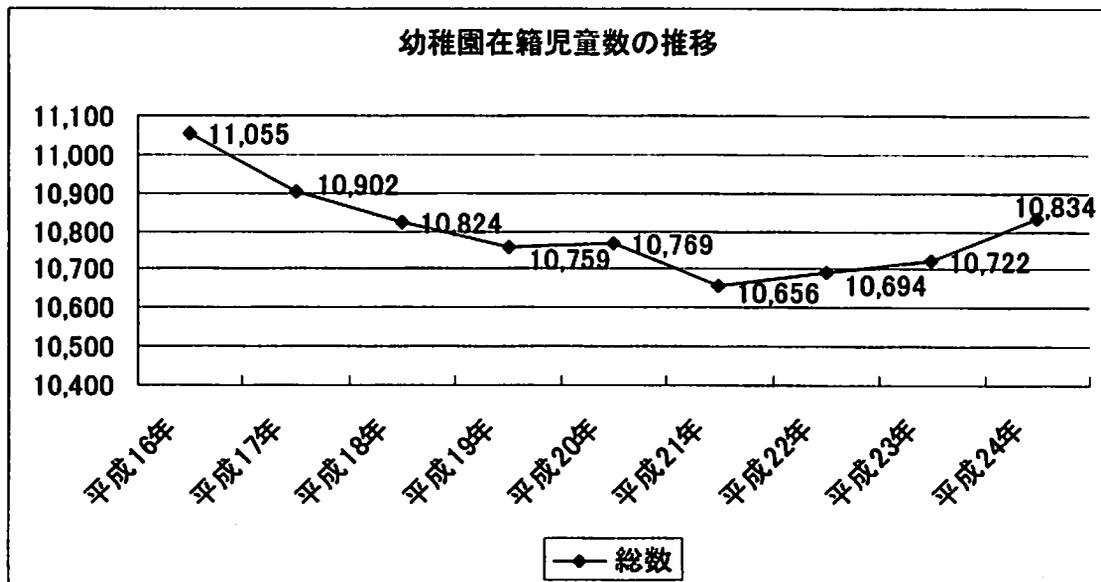
待機児の増加に対応するため整備を行い、平成25年度は876名分の整備を行った。(平成17年⇒25年で4,769人増)



13

<幼稚園在籍児童数の推移>

幼稚園在籍児童数については、減少傾向にあったが、ここ数年は増加傾向にある。(平成16年と比較し、221人減) 平成24年度の定員数総計は12,324人で、充足率は87.9%となっている。

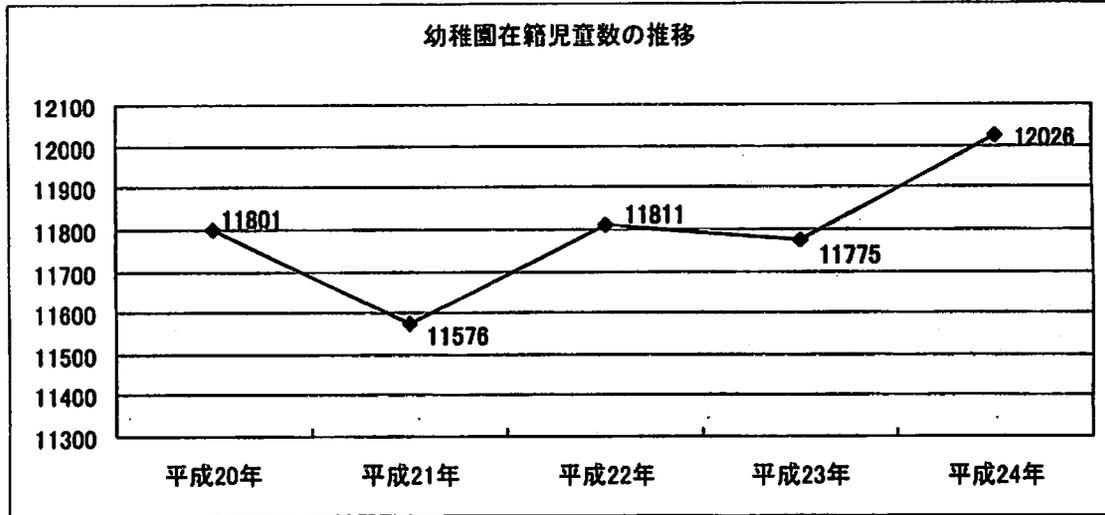


※区内に設置されている公立・私立幼稚園に在籍する児童数

14

<幼稚園在籍児童数の推移>

幼稚園在籍児童数については、増加、減少を繰り返しながらも、やや増加傾向にある。(平成20年と比較し、225人増)

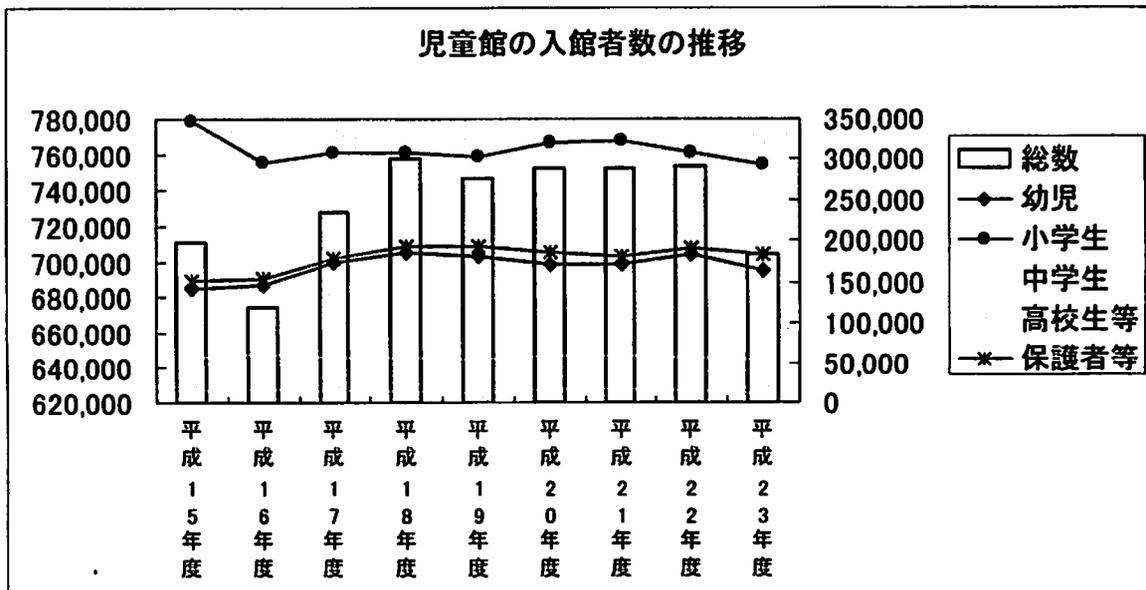


※世田谷区に住民登録があり、区内外の公立・私立幼稚園に在籍する児童数

15

<児童館の入館者数の推移>

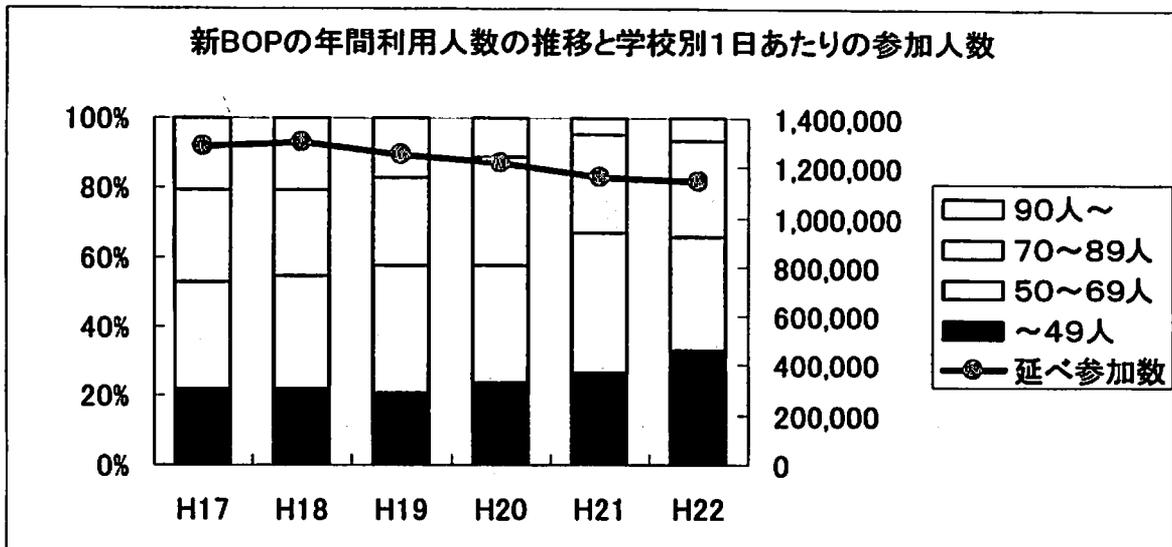
児童館の入館者数については、概ね横ばいで推移しており、うち、4割以上が、小学生である。



16

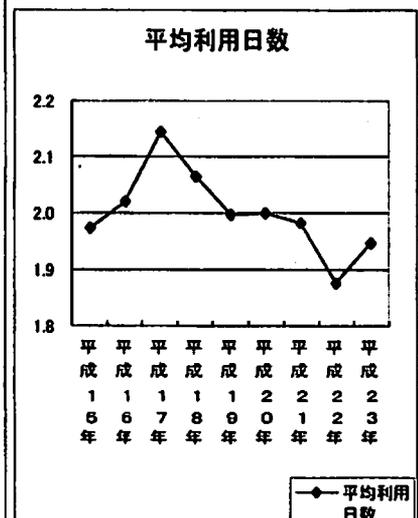
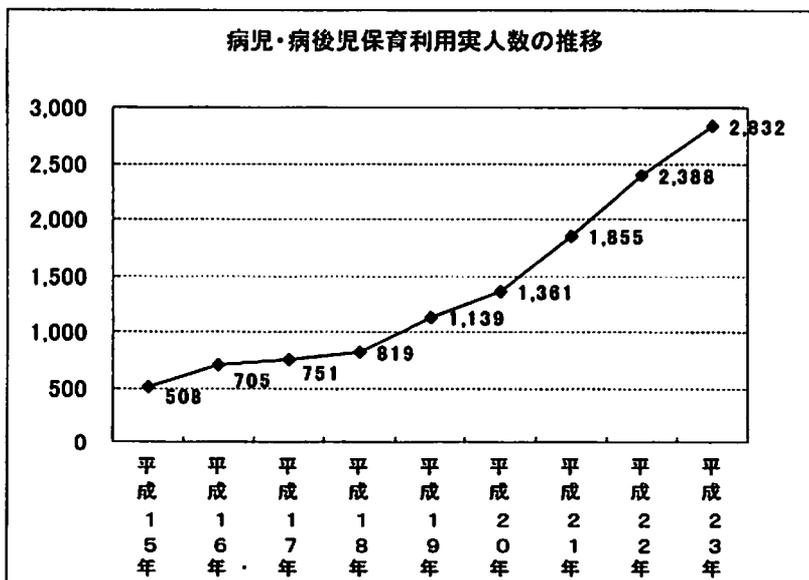
<新BOPの年間利用人数と学校別1日あたりの参加人数の推移>

年間の延べ利用人数は減少傾向にあり、学校別1日あたりの参加人数についても、50人以下、70人以下の割合が増加し、90人を超える割合は減少している。



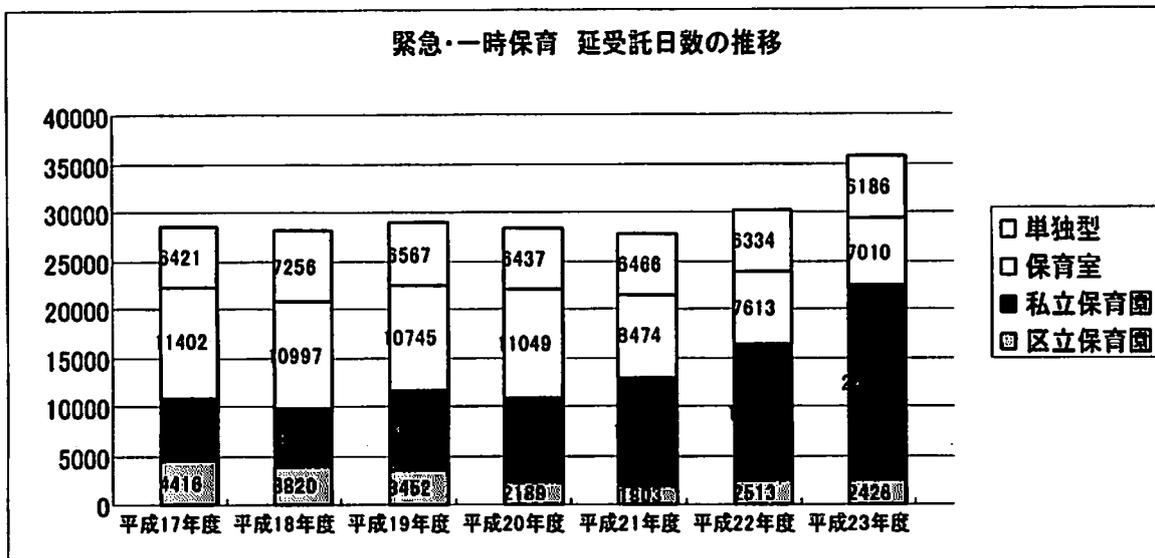
<病児・病後児保育利用実人数の推移>

利用実人数については、ここ数年500人規模での増加が続いている。また、平均利用日数は2日程度と横ばいで推移している。



<緊急・一時保育延受託日数の推移>

概ね横ばいで推移してきたが、平成22年度より増加傾向となっている。内訳としては、私立保育園での受託日数が増加している。

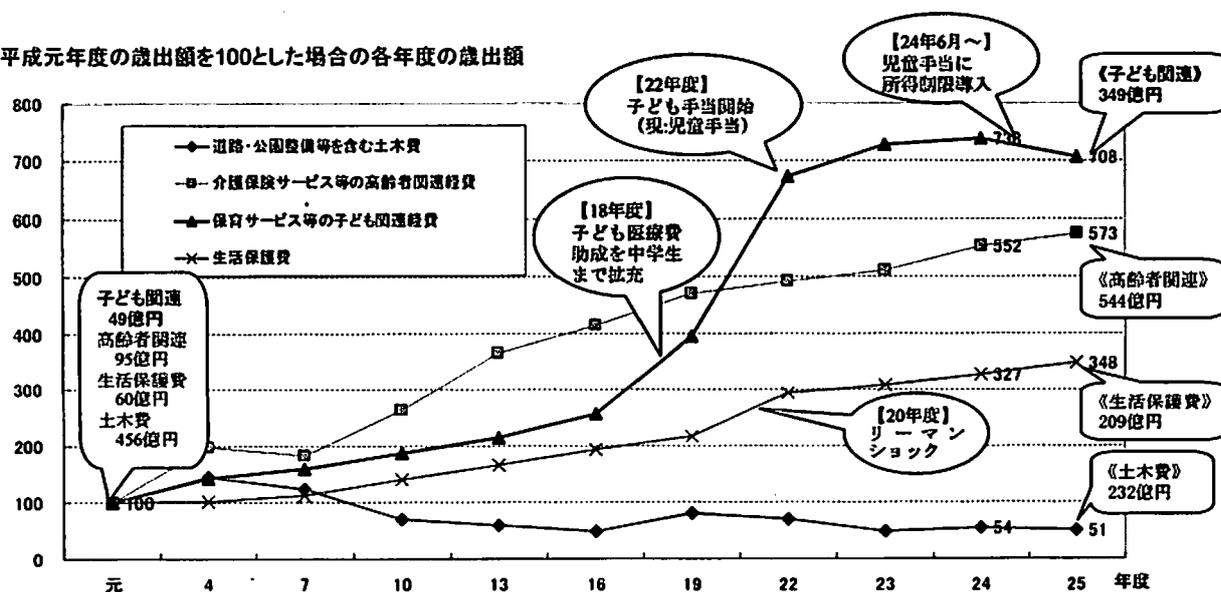


19

<子ども関連経費の推移>

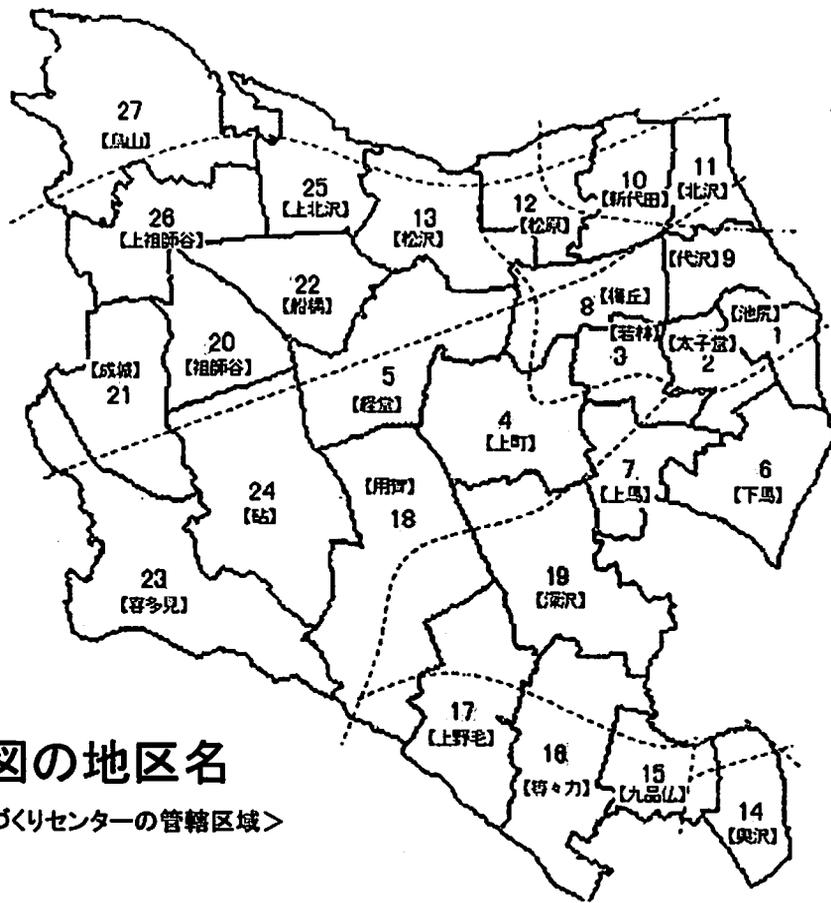
平成25年度の子ども関連の予算額は349億円となっており、平成元年度と比較すると、子ども関連経費は約7倍となっている。

平成元年度の歳出額を100とした場合の各年度の歳出額



注)平成元年度から平成23年度は決算額、平成24、25年度は予算額

20



社会地図の地区名

<出張所・まちづくりセンターの管轄区域>

